

1. 調査研究のテーマ、概要

| | |
|----------|--|
| 調査研究のテーマ | 人権を基底とした教育活動の推進～地域を題材にした生活・総合的な学習を通して～ |
|----------|--|

○調査研究のテーマを設定した目的

大阪市教育振興基本計画（令和3年3月変更）の〔人権を尊重する教育の推進〕の項では、「子どもが様々な人権課題に対する正しい理解と認識を深め、日常生活の中で自他の生命と尊厳を互いに尊重し合う態度をはぐくみ、自他の人権を守る実践行動へとつなげることでできる子どもの育成をめざす」と示している。そして、「身の回りにおける不合理や矛盾に気づく感性を養い、互いに理解し、支えあいながら問題を解決していく力を育て、平和で民主的な社会及び国家の形成者として必要な資質の礎となる人権尊重の精神と実践への態度を養う」としている。

また、「大阪市教育委員会『人権教育・啓発推進計画』実施計画」（平成30年4月改訂）では、子どもの発達段階や各教科等の特性に応じて、地域との連携を進めながら計画的に人権教育に取り組むよう示している。各校園においては、それぞれの実態に応じた『『学校園における人権教育・啓発推進計画』実施計画』を立案し、教職員が人権尊重の理念を正しく理解し、豊かな人権感覚を養い指導力を向上させるための人権教育研修を行い、具体的な取組の実践に努めてきた。平成30年より本市教育委員会では「学力の基礎としての人権教育 個別的課題の実践デザイン」として「同和教育編」をはじめとする個別的人権課題について解説概要版と実践事例集を作成し、本市教員用教育データベース「waku×2.com-bee」に掲載して、全学校園の教職員がいつでも活用できるようにしている。さらに、令和3年には「学力の基礎としての人権教育 個別的課題の実践デザイン～多文化共生～」を作成した。

大阪市の外国籍児童生徒数は増加傾向にあり、国や地域も多様化している。多文化共生教育を推進するためには、外国につながる児童生徒へのさまざまな支援の充実とともに、異文化理解・多文化共生の考え方に基づく教育の在り方について調査研究が重要である。

当該校においても同様の傾向がみられるため、令和5年度は、「人権を基底とした教育活動の推進～地域を題材にした生活・総合的な学習を通して～」をテーマとし、地域のひと・もの・ことに注目させ、地域資源や社会資源を活用することで自分の住む地域を愛し、誇りを持つとともに、他の地域のひと・もの・ことにも思いを巡らせ多様であることの豊かさを実感させながら、自他を尊重する態度と、互いの違いを認め合う集団の育成

を図る。また、クラスにいる外国につながる児童の国・地域についても「ちがうところ」「おなじところ」をありのままに受け止め、多文化共生社会の実現に向け、共生・協働し生かし合うことで、身の回りにある問題をよりよく解決したり、アイデアを出し合っ新しい価値あるものを生み出したりすることができるという考えのもと、そのために必要な資質能力をはぐくむ取組の実践とその有効性について検証する。

そして研究の成果を全市に発信・共有することで、さらなる本市の人権教育の深化・充実につながるものと考え、本テーマを設定した。

○調査研究の概要

①地域を題材にした生活・総合的な学習を中心にカリキュラムマネジメントを進める。教科横断的に学習を進めながら、「主体的・対話的で深い学び」とともに、児童相互のつながりを深め、人権教育を基底とした実践を進める。

②本校に在籍する外国につながる児童や保護者および地域の人材を有効に活用し、ちがいを認め合い、ちがいを豊かさに変える活動や体験を通じて多文化共生教育を進める。

③探究的な学習となるよう「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」を意識した授業づくりを進め、「振り返りと課題設定の更新」（自己評価）を適切におこないな

2. 基本情報

研究指定校の概要

○学校名

大阪市立長吉小学校

○これまでの研究指定等の状況

なし

○学級数

18学級（うち特別支援学級 5学級）

○児童生徒数（R.6.2.1）

全児童数：441名

○URL

<http://swa.city-osaka.ed.jp/swas/index.php?id=e751723>

○指定理由

本市では、平成26年より外国につながる児童生徒の編・転入が増加傾向にあり、令和4年度からは急増しており、国や地域も多様化してきている。当該校においては、韓国朝鮮を含む5つの国や地域の子どもたちが集まり、全学年に外国につながる児童が在籍しており、日本語指導が必要な児童も常時在籍している。本市においても、これら外国につながる児童やその家庭に対する様々な支援策を講じ、各種事業を展開しているところである。当該校は、それら事業を活用しつつ、多文化共生・外国人教育として外国につながる児童をゲストティーチャーとして招いて実践を行うとともに、外国につながる児童の保護者同士が交流する場を設けるなど学年の実態に応じた取組を進めている。また、当該校区内にある日本語アカデミーとも連携し、アカデミーで学ぶ留学生と交流する取組も行っており、本事業の趣旨に則って指定するに相応しいと考える。

○取り組んだ人権課題について

該当するものに○印、最も主要な人権課題1つに◎印を付与

| | |
|-----------------|---|
| ①子供 | |
| ②女性 | |
| ③高齢者 | |
| ④障害者 | |
| ⑤同和問題 | |
| ⑥アイヌの人々 | |
| ⑦外国人 | ◎ |
| ⑧-1 HIV 感染者等 | |
| ⑧-2 ハンセン病患者等 | |
| ⑨刑を終えて出所した人 | |
| ⑩犯罪被害者等 | |
| ⑪インターネットによる人権侵害 | |
| ⑫北朝鮮当局による拉致問題等 | |
| ⑬性的指向、性自認 | |
| ⑭その他 () | |

人権課題「④障害者」については、実践対象学年の児童の実態を勘案した結果、今年度については実践を行っていない。

3. 調査研究の内容等

○調査研究の内容

「人権を基底とした教育活動の推進～地域を題材にした生活・総合的な学習を通して～」

①地域の「ひと」「もの」「こと」に注目し、地域資源や社会資源を活用しながら各学年の実態に応じたカリキュラムを作成する。その際、外国につながるの児童に着目し、生活や文化などの多様性を大切にした実践をすすめる。教員一人一人がカリキュラムマネジメントに参画し、教科横断的に各教科の学習を有機的に関連付け、効果的な学習活動が進められるようにする。

また、「主体的・対話的で深い学び」とともに、クラスの子どもたちがお互いを認め、つながりのある安心して過ごせる居場所づくり、仲間づくりを行う。人権教育が基底にあるという認識を教員一人ひとりが持ち、隠れたカリキュラムについての理解を深め、実践を進める。

②当該校に在籍する外国につながるの児童や保護者、また本校校区にある外国人留学生在が学ぶ「日本語アカデミー」と連携し地域に学ぶ留学生と交流する機会をつくり、互いの文化の違いを認め、ちがいを豊かさにかえる多文化共生教育を進める。留学生をゲストティーチャーとして招き、遊びや言語、文化や習慣など学年の実態に応じた、「多様性への知識理解」「多様な他者との共生・協働」「多様性を活かす」交流を進める。また、外国につながるの児童とその保護者が交流できるような学校を通じた新たなコミュニティを形成することで居心地の良い学校、安心できる学校を目指す。

③これまでも、生活・総合的な学習を研究教科とし実践を積み重ねてきた。その中で探究的な学習課程の在り方についても研究してきた。探究的な学習として「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」を意識した授業づくりを進め、「振り返りと課題設定の更新」（自己評価）を適切におこないながら進める。児童自身が「自分ごと」として捉えられる学習課題の設定、導入の工夫、教育DXの推進・活用、表現の工夫等、カリキュラムマネジメントを進めながら実践する。

○実施方法

①生活・総合的な学習の時間を中心に、教科横断的に実践をカリキュラムに位置付け、計画的に取り組む。

- ・研究授業・研究討議会（年6回以上）、公開授業の実施
- ・生活・総合的な学習の時間の研究授業を各学年1回以上行う。また、多文化共生・外国人教育をテーマにした公開授業を実施する。

・留学生をゲストティーチャーとして招いた交流学習

「多様性への知識理解」「多様な他者との共生・協働」「多様性を活かす」実践を行う。低学年、中学年、高学年と発達段階が上がるにつれそれぞれの内容が濃くなっていくようにする。

②教育課程外での取組

・外国につながるのある児童や保護者が参加しての多文化共生交流会、ワールドクッキング等の実施

③特別の教育課程による日本語指導・母語指導

・国語科の時間を中心に、教育委員会の事業も活用しながら、取り出しまたは教室入り込みの専門家による指導を行う。

【先進的な取組】

・多文化共生教育を進めるにあたって地域にある教育資源を活用するモデルの一つとして、地域の日本語学校や留学生と連携した実践を行うことは先進的である。

・日本語指導において、母語指導を両立させる取組を行うことで、児童の日本語力がどのように育ち、獲得の度合いや要する時間に変化があるかどうかを検証していくことはこれまでにない取組となる。

【期待される効果】

・地域の日本語学校や留学生と取組むことで互いの学びや教育効果が上がる。

・地域にある教育資源として継続し、発展的な活動につながる。

・教育 DX を推進し、一人一台端末や ICT 機器を学習の手段や身近なツールとして活用することが定着する。

4. 検証・評価・改善・普及

①上記の①②についての検証・評価

- ・長吉小学校では、年2回児童アンケートを行っており、以下の項目についての前年度比較を行い、その伸びをもって検証・評価を行う。 ※（ ）は前年度肯定回答の割合
「友だちのよいところをみつけてほめたことがありますか。」 90.0% (75.0%)
「自分にはよいところがあるとおもいますか。」 74.0% (64.0%)

②上記の③についての検証・評価

- ・対象児童の指導前、指導後の「ATLAN 適応型言語能力検査（語彙）」の結果を比較し、その伸びをもって検証・評価を行う。

③成果と課題の発信・普及

- ・これらの実践内容、検証結果及び評価等を、研究紀要に記載し、教員研究発表会で研究発表する。
- ・長吉小学校創立 150 周年記念式典において、地域・保護者・教職員OBにむけ児童の取組として発表する。
- ・教育委員会の行う事業の活用にかかわっては、教育委員会と連携し、事業効果の一つとして活用を図っていただく。

④委託期間終了後の取組

- ・成果、効果のあった取組を精選し、教育課程編成に組み込み、継続して取り組んでいくことで、単年度だけではなく、中期的展望をもって取組後の検証を行い、発信していく。
- ・効果のあった事業活用については、教育委員会との連携において、事業化に向けた検討を一考していただく。

5. 人権教育に係る年間指導計画

大阪市立長吉小学校

令和5年度 人権教育年間指導計画

集団作りの学年目標

1年

友だちのことを知り、困っている友だちにすすんで手助けをしたり、だれとでも仲良くしようとしたりする態度を育てる。

☆学年集団の実態

本学年の児童は、活発で元気いっぱいである。休み時間には外で遊ぶ児童が多い。学習に対しての意欲は高く、何事にも一生懸命に取り組む児童が多い。また当番活動や日直活動にも積極的に取り組む姿が見られる。

しかし、落ち着いて話を聞くことが苦手だったり、じっとすわっていることが難しかったり、自分の気持ちをうまく伝えることが難しい児童もいる。また、言葉遣いが乱暴だったり、つい手が出てしまう児童もいる。

1年生の時期により良い出会いをし、様々な立場の児童を互いに知り合い、温かい気持ちで友だちに接することができる児童を育て、互いに支え合えるような集団へと育てていく素地を養っていきたい。

☆課題解決のための具体的方策

- ・ グループ活動を多く取り入れ、仲間意識を高める。また力を合わせて成功する体験を積みせるような工夫を行う。
- ・ 日々の学級指導を通して、友だちのことを理解しようとする気持ちを育てる。
- ・ 頑張っていることや、できたことをその都度認めていく。また、朝の会や帰りの会などで、子どもたちが互いの良さを伝え合えるような場を設定する。
- ・ 係活動を活発に行えるよう支援し、学級のために積極的に行動しようとする態度を育てていく。
- ・ 学級や学年で必要なルールを話し合わせ、守るよう指導していく。

1年 年間指導計画

| 月 | 主題（テーマ） | 題材名 | 教科・領域 | 時数 |
|----|----------------------------|---------------------------------|------------|----|
| 4 | 集団育成 | たのしいがっこう | 道徳 | 1 |
| | | よろしくね | 国語 | 1 |
| | | がっこうだいすき | 生活 | 6 |
| 5 | 集団育成 | ありがとう | 道徳 | 1 |
| | | 一人一役 | 学活 | 2 |
| 6 | 集団育成 | いまどんなきもち | 道徳 | 2 |
| | | ぞうさんとおともだち | 道徳 | 1 |
| 7 | 集団育成 | どうしてかな | 道徳 | 1 |
| 9 | 集団育成 国際理解 国際理解 | してはならないことがあるよ | 道徳 | 2 |
| | | にっぽんのおかし | 道徳 | 1 |
| | | オリンピック・パラリンピッ ク | 道徳 | 1 |
| 10 | 特別支援教育 多文化共生、国際理解 教育 | ぼくのおにいちゃん | 道徳 | 3 |
| | | 韓国・朝鮮について | 学活 | 1 |
| 11 | 国際理解 集団育成 | せかいの「こんにちは」「ありが とう」ともだちとなかよく | 道徳 | 1 |
| | | | 道徳 | 1 |
| 12 | 集団育成 | 二わのことり | 道徳 | 1 |
| 1 | 防災教育 特別支援教育 性教育 | 1. 17大震災 | 道徳 | 1 |
| | | A ルームってどんなと こ | 道徳 | 1 |
| | | プライベートゾーン・せいけつ なからだ | 保健（体 育） | 1 |
| 2 | 多文化共生 反戦平和 | フィリピンのあそびを知ろう | 道徳 | 1 |
| | | さよならカバくん | 道徳 | 1 |
| 3 | 防災教育 自己肯定感 | はしれ、さんりくてつどう | 道徳 | 1 |
| | | 2年生にむけて | 生活 | 1 |
| | | ようこそ長吉小学校へ | 生活 | 1 |

集団作りの学年目標

2年

自分や友だちを大切にして、仲間と協力し合える集団を育てる。

☆学年集団の実態

本学年の児童は、活発で元気いっぱいである。休み時間には外で遊ぶ児童が多い。学習に対しての意欲は高く、何事にも一生懸命に取り組む児童が多い。また当番活動や日直活動にも積極的に取り組む姿が見られる。

しかし、落ち着いて話を聞くことが苦手だったり、新しい環境に慣れるのに時間がかかったり、自分の気持ちをうまく伝えることが難しい児童もいる。また、友だちにも優しく声をかける児童が多いが、言葉遣いが乱暴だったり、つい手が出てしまったりする児童も少なくない。とっさにごまかしたり、嘘をついてしまったり、善悪が分からず間違えた行動をとってしまったりする姿も見られる。

2年生では、様々な立場の児童を互いに知り合い、温かい気持ちで友だちに接することができる児童を育て、互いに支え合えるような集団へと育てていく素地を養っていききたい。

☆課題解決のための具体的方策

- ・ 集団内で一人ひとりが活躍できる場や、互いに協力し合って成功する体験を積ませる。
- ・ 自分の意見を持てるように、考える時間を多く設ける。
- ・ グループ活動を多く取り入れて、自分の意見を発表できるようにする。
- ・ 日々の学級指導を通して、友だちのことを理解しようとする態度を育てる。
- ・ 頑張っていることや、できたことをその都度認める。
- ・ 係活動を活発に行えるよう支援し、学級のために積極的に行動しようとする態度を育てていく。
- ・ 自分たちの生活や集団を振り返らせる機会を設け、学級や学年で決めたルールの確認や、必要なルールを話し合い、責任をもって守れる態度を育てる。
- ・ 学年便り、保護者懇談会などで児童の様子やがんばりやよさを積極的に伝え、学校と家庭で連携を密にしていく。

2年 年間指導計画

| 月 | 主題（テーマ） | 題材名 | 教科・領域 | 時数 |
|----|-------------------------|-------------------|-------|----|
| 4 | 集団育成 国際理解 | 1学期の係を決めよう | 学級活動 | 1 |
| | | うたでともだちのわをひろげよう | 音楽 | 1 |
| 5 | 集団育成 集団育成 集団育成 | 楽しい遠足にしよう | 生活 | 1 |
| | | グループあそび | 学級活動 | 5 |
| | | およげないりすさん | 道徳 | 1 |
| 6 | 情報モラル 集団育成 | おにいちゃんの電話 | 道徳 | 1 |
| | | みんな遊び | 学級活動 | 1 |
| 7 | 国際理解教育 集団育成 | タヒチからの友だち | 道徳 | 1 |
| | | 一りん車 | 道徳 | 1 |
| 9 | 集団育成 | 2学期の係を決めよう | 学級活動 | 1 |
| 10 | 自己肯定感 食育 集団育成 | ともだちのいいところを発見しよう | 道徳 | 2 |
| | | う | 学級活動 | 1 |
| | | なんでも食べよう | 学級活動 | 1 |
| | | みんな遊び | | |
| 11 | 集団育成 情報モラル | あの子どもな子 | 学級活動 | 1 |
| | | おばあちゃんお元気ですか | 道徳 | 1 |
| 12 | 部落問題学習 自己肯定感 | おかあさんのしごと | 道徳 | 1 |
| | | おじさんからの手紙 | 道徳 | 1 |
| 1 | 集団育成 生命・感謝 自己肯定感 | 3学期の係を決めよう | 学級活動 | 1 |
| | | きつねとぶどう | 道徳 | 1 |
| | | 大きくなった自分を振り返ろう | 生活 | 9 |
| 2 | 国際理解教育 自己肯定感 集団育成 | 多文化共生教育 | 道徳 | 1 |
| | | 大きくなった自分のことをまとめよう | 生活 | 9 |
| | | ぐみの木と小鳥 | 道徳 | 1 |
| 3 | 国際理解教育 防災教育 自己肯定感 | ハンナのなみだ | 道徳 | 1 |
| | | 東日本大震災 | 道徳 | 1 |
| | | すてきな3年生になろう | 生活 | 3 |

集団作りの学年目標

3年

自分や友だちを大切にし、みんなで共に学び合うことができる集団の育成

☆学年集団の実態

本学年の児童は、グループ学習やみんな遊びなど、特定の友だちと一緒にする活動にとっても積極的である。協力して課題を解決したり、仲良く遊んだりできる児童がいる反面、自分の考えを相手にうまく伝えられなかったり、言動が乱暴で相手に嫌な思いをさせたりなど、コミュニケーションに課題を抱えている児童も多い。本学年の集団としての課題は、このような苦手なことがある児童に対しての深い理解と配慮である。

そこで、本学年では、様々な立場の児童を互いに知り合い、温かい気持ちで接することができる児童を育て、互いに支え高め合っていける集団へと育てていく素地を養っていききたい。

☆課題解決のための具体的方策

- ・ グループ活動を通して、協力することの大切さを感じさせる。
- ・ 自分のことだけでなく、友達のことを考えて行動し、思いやりを持つことの大切さを感じさせる。
- ・ 児童が努力したことや、達成できたことなどは必ず誉めて児童の行動を認める。
- ・ 児童がやらなければならないことは、細かいことでも事前に約束し達成させることを意識させる。達成したときは誉め、達成できなかったときはなぜできなかったのかを一緒に考え、温かさを持って児童に接する。
- ・ チクチク言葉ではなく、ぽかぽか言葉へと変えていけるように継続して指導をしていく。

3年 年間指導計画

| 学期 | 主題（テーマ） | 題材名 | 教科・領域 | 時数 |
|----|--|--|--|----------------------------|
| 1 | 集団育成 自己肯定感 多文化共生 礼儀 伝統と文化の尊重 | 自己紹介をしよう コミュニケーションについて考えよう いろいろな国のあいさつ 足りない気持ちは何だろう ふろしき | 学活 総合 外国語 道徳 道徳 | 1 1 1 1 1 |
| 2 | 障がい者教育 障がい者教育 障がい者教育 | 障がいってななに① パラリンピックが目指すもの 障がいってななに② | 総合 国語 総合 | 1 1 2 1 |
| 3 | 防災教育 郷土愛 郷土愛 感動・畏敬の念 障がい者教育 | 助かった命 昔の暮らしを調べて紹介しよう 昔から伝わる行事 富士と北斎 車椅子体験 | 道徳 総合・社会 社会 総合・社会 社会 道徳 総合 | 1 8 5 3 3 3 |

集団作りの学年目標

4年

あきらめずにチャレンジする気持ちを持つ。思いやりの気持ちを持ち、友だちと助け合い学びあうことができる集団の育成をする。

☆学年集団の実態

本学年の児童は、とても元気で体を動かして遊ぶのが好きな児童が多い。休み時間には、クラスだけでなく、学年で誘い合って遊んでいる。また、終わりの会で友だちの良いところを発表する児童が多く、日頃から友だちのことをよく見ている児童が多いように思われる。しかし、感情のコントロールができずに暴れたり、欲望のままに行動したりする児童も少なくない。また、その様子を見て流されてしまう児童もいる。このような課題を抱えている児童に対して理解を深め、支援を行い、落ち着いて学習や学校生活を送れるようにしていきたい。相手を思いやり、共に助け合う集団へと育てていきたい。

☆課題解決のための具体的方策

- ・ 集団やグループ活動では、一人ひとりが活躍できる場を多く取り入れ、互いに協力し合って成功する体験を積ませる。
- ・ 活動の前には流れや内容を知らせ、ルールを確認できるよう必ず事前指導を行う。また、振り返させる機会を設け、よかったところは褒める。
- ・ 日々の学級指導を通して、あたたかい気持ちで相手を認め、友だちのことを理解しようとする気持ちを育てる。
- ・ 頑張っていることや、できたことをその都度認めていく。また、朝の会や終わりの会などで、子どもたちが互いの良さを伝え合えるような場を設定する。

4年 年間指導計画

| 学期 | 主題（テーマ） | 題材名 | 教科・領域 | 時数 |
|-------------|-----------------|---|----------------------|--------|
| 1 学 期 | 集団育成 | 学級目標を決めよう | 学級活動・総 合 | 1 1 |
| | 相互理解・寛容 | みんな遊びを計画しよう | 学級活動 | 1 |
| | 部落問題 | いじめについて考えよう「ちこく」 | 道徳 | |
| | | 「遠足の朝」「いじりといじめ」 | 社会・総合 | 6 6 |
| | 国際理解 親切、思いやり | 住みよいくらしとごみ 都道府県を調べよう 海をこえて 心とこころのあく手 | 総合 道徳・総合 道徳・総合 | 1 1 |
| 2 学 期 | 集団育成 | 仲間と力を合わせて （運動会に向けて） | 体育・総合 | 2 |
| | | 学年遊び | 学級活動 | 2 |
| | 男女共生 | 友だちのいいところ・もちあじ | 総合 | 1 |
| | 自然愛護 | 聞かせて、君の声を！ | 道徳 | 1 |
| | 正直・誠実 | 正直はだれのため | 道徳 | 1 |
| | 部落問題 国際理解 | 正直はだれのため 大和川のつけかえ Do you have a pen? | 総合 外国語 | 2 1 |
| 3 学 期 | 集団育成 | 自分プレゼンテーション | 総合 | 1 6 |
| | 国際理解・国際親善 | いろいろな食べ方 | 道徳・総合 | 1 |
| | 郷土愛 | 浮世絵 | 道徳・総合 | 1 |

集団作りの学年目標

5年

互いの違いを認め、相手のことを思いやり、協力する集団を育成する。

☆ 学年集団の実態

本学年の児童は、明るく活発な児童が多い。委員会活動や当番活動にも意欲的に取り組んでいる。また、クラスや学年で休み時間に遊ぶなど友達と仲良く活動する姿が見られる。しかし、遊びの中で何気なく友達を傷つける言葉を使ったり、コミュニケーションの取り方がわからず、トラブルになったりすることがある。互いの違いを認め、相手のことを思いやり、協力して活動できる集団を育てたい。

☆課題解決のための具体的方策

- ・日々の学級指導や道徳の時間等を通して、友達のよいところや、自分のよいところに気付けるようにする。
- ・係活動、委員会活動、クラブ活動を通して、同学年や他学年の友達と協力して活動することの喜びや達成感を味わうことができるようにする。
- ・グループ遊び、みんな遊びなどを多く取り入れ、いろいろな友達と関わる機会を設ける。
- ・話し合い活動やグループ活動を積極的に取り入れ、みんなで協力して課題を解決したり、一人ひとりが発言できる場を設けたりする。

5年 年間指導計画

| 学期 | 主題（テーマ） | 題材名 | 教科領域 | 時数 |
|----|---------------|------------------------------------|----------|---------|
| 1 | いじめ 国際理解教育 | 名前のない手紙 | 道徳 | 1 |
| | | 民族学博物館から始まる世界の文化、日本の文化 友だちの国のこと | 総合 道徳 | 10 1 |
| | 集団づくり | 林間学習にむけて 林間学習 | 総合 | 5 |
| | 男女共生教育 | 古いバケツ | 道徳 | 1 |
| 2 | 集団づくり | 折れたタワー | 道徳 | 1 |
| 3 | 特別支援教育 | サンフェイス | 総合 | 1 |
| | 環境生命学習 | 命の種を植えたいー緒方洪庵ー | 道徳 | 1 |
| | 自己肯定感 | 最高学年6年生にむけて | 特活 | 1 |

集団作りの学年目標

6年

自分や友だちの思いを大切にし、互いに高め合い、最高学年として考え・行動できる集団の育成

☆学年集団の実態

本学年は、明るく活発で、様々な活動に一生懸命取り組む児童が多い。委員会活動や当番活動にも意欲的に取り組み、友だちと協力する姿が見られる。しかし、遊びの中で何気なく友達を傷つける言葉を使ったり、コミュニケーションの取り方がわからずトラブルになったりすることがある。また、自尊感情が低く、何事にも消極的な児童や自分の思いを言葉で伝えられない児童もいる。自分も友だちのことも大切にし、高学年として高め合いながら、協力して活動できる集団を育てたい。

☆課題解決のための具体的方策

- ・様々な人権問題について触れる機会を設け、いろいろな立場の人がいることに気づかせる。
- ・実行委員会を組織し、学校行事を自分たちで計画・実行させ自分たちの行事であるということを意識させていく。
- ・互いの良さを見つけ合いほめ合う活動を意図的に取り入れる。
- ・学年目標の「For」を合言葉に、自分にできることを考え計画実践していくことで、成功体験を積み重ねる。
- ・委員会活動やクラブ活動、なかよし学年活動などを通して、学校のリーダーとしてより良い学校作りに参画させる。
- ・学年や学級で自分たちの生活や集団について振り返る場を設け、最高学年としてふさわしい態度を身につけさせる。

6年 年間指導計画

| 学期 | 主題（テーマ） | 題材名 | 教科・領域 | 時数 |
|----|---|------------------------------|----------|--------|
| 1 | 人権 いじめ | 日本国憲法の基本的人権 | 社会 | 1 |
| | | ユニバーサルデザイン | 社会 | 1 |
| | | ユニバーサルデザイン長吉 | 総合 | 1 5 |
| | | わたしのせいじゃない | 道徳 | 1 |
| 2 | 障がい者理解 同和教育 反戦平和 ジェンダー 男女平等 | 東京パラリンピック | 道徳 | 1 |
| | | 渋染一揆 | 社会 | 1 |
| | | ヒロシマのうた | 国語 | 6 |
| | | ピース大阪見学 | 社会 | 1 |
| | | 十六地蔵物語 | 社会 | 1 |
| 3 | 国際理解 反戦平和 | 日本と世界の音楽に親しもう | 音楽 | 3 |
| | | 長く続いた戦争と人々の暮らし | 社会 | 7 |
| | 多文化共生 在日韓国朝鮮人教育 | 日本とつながりの深い国々 韓国・朝鮮について知ろう | 社会 特活 | 7 1 |

6. 推進体制（都道府県・指定都市教育委員会を含む）

